



第46期 報 告 書

平成19年4月1日～平成20年3月31日



株式会社 **エフピコ**

証券コード：7947



代表取締役社長

小松安弘

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

ここに、当社第46期の営業の概況と決算の状況につきましてご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、国内企業の業績は堅調に推移し、個人消費も底堅く推移いたしました。しかしながら、後半は、米国を中心とした海外金融市場の混乱や、原油価格をはじめとする原材料の高騰、さらに為替の不安定な動きもあり、景況感は先行き不透明な状況となっております。

当業界におきましては、当社主力製品の原材料ポリスチレン（PS）価格が前年度以降通算4回（6～9次）にも及び値上がりとなり、ポリプロピレン（PP）の断続的な値上がりに加え、段ボールなどの副資材の値上がりなど、企業業績を取り巻く環境は厳しさを増しております。

このような状況の下、当社グループは、生産・物流・営業・管理などあらゆる部門で生産性向上とコスト削減に努め、グループ全体で企業体質強化に取り組んでまいりました。原材料価格の値上がりに対しましては、製品の軽量化及びPSからポリエチレンテレフタレート（PET）への素材変更による材料費の削減と、社内合理化によるコスト削減に取り組む一方で、自助努力のみでは限界もあり、平成19年7月には製品価格の値上げを発表し、製品値上げ交渉に全力で取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の製品売上高につきましては、高付加価値製品や新機能製品の開発を行う一方で、品質向上にも努め、さらには、製品値上げ交渉が厳しい状況ながら決着したこと等により、前年度を上回りました。しかしながら、製品値上げに関する当業界各社の対応に差が見られ、また、稼働率を意識したと思われるシェア獲得競争等が一部で見られたため、計画を達成するには至りませんでした。他方、商品売上高につきましては、引き続き、包装資材等の推奨商品への絞り込みと不採算取引の見直し等を行ったこともあり減収となり、連結売上高は1,255億13百万円となりました。

利益につきましては、営業利益59億87百万円、経常利益64億53百万円、当期純利益41億57百万円となりました。

当連結会計年度の原材料費は、前年度の第2四半期以降に余儀なくされた3回（6～8次）にわたる原材料値上がり及び当連結会計年度第1四半期に決着しました9次の原材料値上がりなどにより、前年度に比べ39億50百万円の上昇となり

ました。また、費用は、素材切替や製品の軽量化及び今後の成長戦略を見据えた金型及び生産設備の償却等により、前年度に比べ9億78百万円の増加となっております。一方、素材切替、製品の軽量化、製品値上げ及び新製品投入並びに生産・物流面での社内合理化等による利益改善額は、前年度に比べ32億55百万円となりました。しかし、売上高が計画より伸びなかったこと、製品値上げの決着時期が、特に大手ユーザーを中心に遅れたことにより、当連結会計年度の経常利益は、64億53百万円となり、前年度に比べ16億73百万円の減益、中間決算時に発表いたしました修正計画に対しましては、12億47百万円の未達となっております。

なお、当社グループの販売品目別の売上高概況は次のとおりであります。

分類	主要品目	売上高	構成比	前年度比
製品	トレー容器	百万円 27,548	% 22.0	% 98.2
	弁当容器	65,317	52.0	104.7
	その他製品	1,364	1.1	86.4
	小計	94,231	75.1	102.4
商品	包装資材	19,341	15.4	92.0
	その他商品	11,940	9.5	106.6
	小計	31,282	24.9	97.1
合計		125,513	100.0	101.0

中長期的な会社の経営戦略

原材料価格の上昇など、事業を取り巻く状況が厳しさを増しているなかで、当社グループといたしましては、以下の重点施策「中長期的な経営戦略」を着実に実行するとともに、これまでに行ってきた基盤整備強化の成果を踏まえ、よりコスト競争力のある、安定した利益を確保しうる強固な企業体質の形成を目指してまいります。

当社グループの経営方針の実現及び目標とする経営指標を達成するために、確固たる経営基盤づくりを進め、「食品容器を通じて、お客様の快適な食生活を創造する企業グループ」を目指し、食環境の一翼を担う企業としての責任を果たすべく、製品開発力・販売力の強化及び品質、生産性、サービスの向上を図り、トータルコストの低減に努めるべく以下の点に注力してまいります。

(1) 生産の技術革新と新製品開発

最新鋭の生産設備の導入と更新を行い、素材の薄肉化、製品の軽量化、新機能、新素材開発など、技術革新を推進し、高品質で付加価値の高い新製品の開発スピードを早め、お客様のニーズに対応してまいります。

(2) 提案型企業の実現

市場の品質に対する要求の高まりや中食市場の需要拡大を背景とした食環境の変化を先取りし、お客様のニーズに即した製品開発を行い、容器を通じて売り場の差別化を図ってまいります。

全国各地で「エフピコ・ミニフェア」を開催し、提案型営業の質とスピードを高めてまいります。

(3) 供給体制の強化

サプライチェーンマネジメント（SCM）システムのさらなる充実に努め、トータルコストの最適化を目指した生産及び物流体制の整備に取り組んでまいります。

SCMを核に、全国の配送センターに張り巡らされた物流システムを最大限活用し、より高い次元で合理化された物流サービスを提供するとともに、クリーンな環境で、誤出荷などのお客様クレーム10ppm（100万分の10）以下を目標として、鋭意努力してまいります。

(4) 環境経営の推進

容器の軽量化及びロースタック化はもとより、効率的な物流によるトラック台数の減少、CO₂を含む地球温暖化ガスの削減など、平成22年を達成年とした「環境経営5ヵ年計画」を着実に実行します。

また、容器包装リサイクル法の改正も念頭におき、循環型の「エフピコ方式（トレーtoトレー）」を確立したエフピコならではの環境への取り組みをさらに推し進め、自主的な回収の推進や再生トレー（エコトレー）の普及等、業界を牽引する各種施策を実施してまいります。

発泡スチロール製食品用トレーの自主的な回収に加え、一部地域で実施しておりました透明容器の自主的な回収を全国に展開し、さらなる循環型社会の形成に尽力いたします。

(5) 企業の社会的責任（CSR）を重視した活動

障がい者就労支援に積極的に参画し、地域社会より信頼を得るための活動をしてまいります。

また、リサイクル工場見学や展示会など様々な機会を通じて消費者の皆様とのコミュニケーションを進め、「安全・安心」をキーワードに、ISO9001認証取得を全国の工場に広げ、トレーサビリティもさらに強化し、製品の安全衛生・品質管理に努めてまいります。

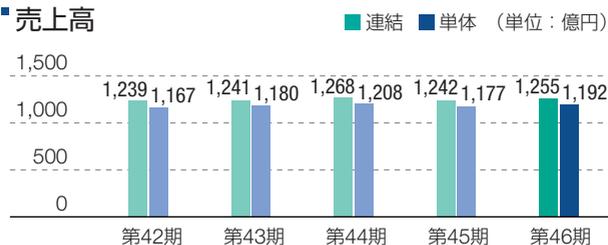
(6) 知的財産権の強化

当社グループの独自性・差別化を市場においてより確かなものとするため、特許や実用新案・意匠登録等の申請を進め、知的財産権の取得により企業価値を高めてまいります。

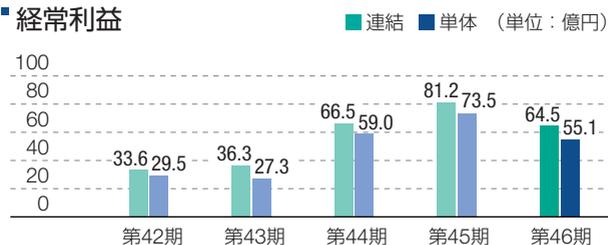
株主の皆様には、何卒、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年6月

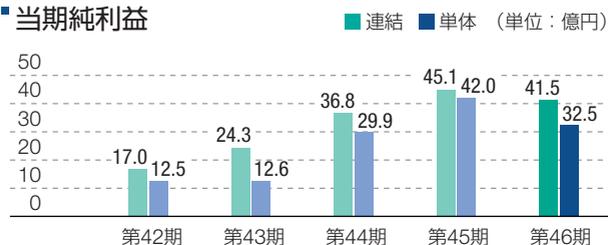
■ 売上高



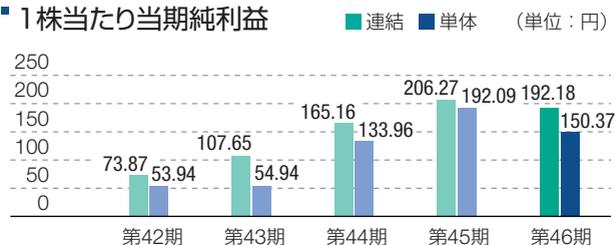
■ 経常利益



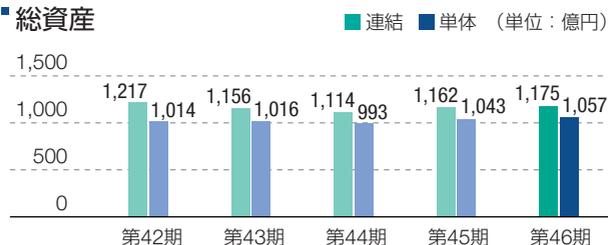
■ 当期純利益



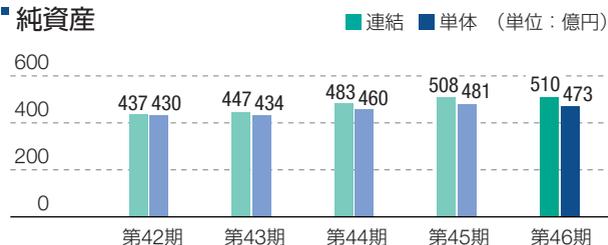
■ 1株当たり当期純利益



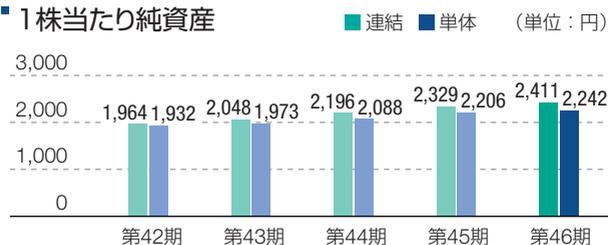
■ 総資産



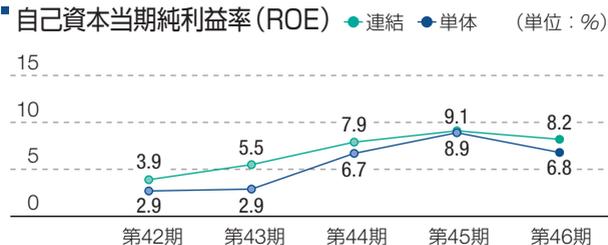
■ 純資産



■ 1株当たり純資産



■ 自己資本当期純利益率 (ROE)



■ 次期の業績の見通し

次期の連結業績は、連結売上高1,290億円、連結経常利益78億円、連結当期純利益46億80百万円、1株当たり当期純利益221円42銭と予想しています。

「2008年春エフピコ・ミニフェア」開催

「2008年春エフピコ・ミニフェア」を、3月4日の名古屋を皮きりに、3月11日・12日の東京、3月19日の大阪、4月10日の福岡と、全国4会場で開催し、延べ8,800名の方々にご来場いただき、盛況のうちに終了いたしました。

今回のフェアでは、春夏の売り場づくりに役立てていただくため、約500アイテムの新製品を発表したほか、4,000パックを超える商品を展示しました。また、変化する市場のニーズに応えるべく、3つの新しいご提案をいたしました。

一つ目の提案は「個性派定番のススメ」として、お馴染みの食材に味の組み合わせなど、ひと工夫を加えた商品実例を多数展示しました。また、簡便仕様売り場の鮮魚や、情報発信型の精肉、ターゲットを明確にした米飯、平日と週末で変化させる寿司などをご提案しました。

二つ目は、原油価格高騰や容器リサイクル法の対応策として、容器の素材変更・軽量化・薄肉化を図った商品を各売り場と

「エコストアへのススメ」と題したブースでご案内しました。このブースでは資源の有効活用やCO₂排出の削減など、環境配慮を意識した取り組みについても、ご提案させていただきました。

三つ目は、昨年のフェアに引き続き「折箱の提案」を実施しました。これは各部門の1コーナーの容器をすべて折箱に上質化させるという展示です。消費者の高級志向や食の安全・安心への関心の高まりが追い風になり、折箱マーケットは確実に浸透しており会場でも注目を集めました。なお、この折箱は、障がい者が自立支援法に基づく福祉サービス事業所の指定を受けた当社の愛パックグループで生産されています。今後とも、当社はエフピコ・ミニフェアなどを通じ、市況の変化に対応すべく、お客様への有益な提案と情報の提供を続けてまいります。



本社新社屋完成

創業45周年記念事業として建設されていた本社新社屋が07年12月に完成し、08年1月に竣工式を行いました。

新社屋は、24時間体制のセキュリティシステムや太陽光発電システムを備え、安全性・環境性に配慮した建物になっています。また、各部門を2階のワンフロアに集約したため、部門間の連携強化や業務の効率化が図れるようになりました。この新社屋を機に、社員全員が一丸となって、業績向上に努めてまいります。



外観



受付フロア

中部第2工場稼働開始

中部地区の拠点工場として建設を進めていた「中部第2工場」が07年9月に完成し、10月に稼働開始しました。この工場は「お客様に安心・安全を提供する清潔で衛生的な環境下でのものづくり」「快適な作業環境によるものづくり」をコンセプトに設計されています。最新鋭の設備として、PSP成型ラインが稼働している他、原反自動搬送システムは当工場のみを導入されています。また、天然芝による屋上緑化を施すなど、環境に配慮した点も特長となっています。



中部第2工場

「第2回ものづくり日本大賞 中国経済産業局長賞」受賞



受賞者一同による記念撮影



ものづくり日本大賞は、製造現場に携わる人材や団体を表彰する制度です。07年8月に開催された第2回大会の中国ブロック製造・生産プロセス部門において、当社が地元のスーパーや問屋、消費者と協力して推進している「使用済みトレーの回収・リサイクルシステムの開発と実用化」が中国経済産業局長賞を受賞しました。

APデリ八角

天面が広く、量目を抑えた、機能満載のA-PET容器の登場です。汁漏れしにくい内かん合で、透明感のある素材のきらめきが季節を涼しげに演出します。



APデリ八角 160-500



APデリ八角 160-320



APデリ八角 130-110



京華FTデリカ 13-11



黒FTデリカ 13-11



遠野FTデリカ 15-11

優れた耐熱性を誇るPPフィラー製の電子レンジ対応容器です。容器底面には、前後左右に食品が移動しないように考慮されたリブを配置しています。

FTデリカ

HS-610

女性や高齢者向けに、ちょうど良いミニ弁当サイズで上市しました。ターゲットを明確にし、需要にあわせた様々な商品づくりが可能になります。



HS-611-1 木の芽オレンジ



HS-612-1 うららかレッド



HS-615-1 うらかがグリーン



彩皿 大河



彩皿 あまみ



彩皿 加賀

陶器皿の持つ雰囲気や食感を容器にアレンジしました。本体が浅く、すっきりした高蓋の容器です。刺身や寿司を浮き立たせ、商品の立体感を演出することができます。

彩皿

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表 (平成20年3月31日現在)

(単位：百万円)

資産の部	
科 目	金 額
流動資産	50,638
現金及び預金	8,225
受取手形及び売掛金	24,215
たな卸資産	14,124
繰延税金資産	708
短期貸付金	800
未収入金	2,364
その他	339
貸倒引当金	△ 137
固定資産	66,954
有形固定資産	57,671
建物及び構築物	28,337
機械装置及び運搬具	4,449
土地	21,580
建設仮勘定	132
その他	3,170
無形固定資産	907
のれん	4
その他	903
投資その他の資産	8,374
投資有価証券	2,979
長期貸付金	3,644
繰延税金資産	876
その他	1,090
貸倒引当金	△ 215
資産合計	117,592

負債の部	
科 目	金 額
流動負債	52,854
買掛金	17,479
短期借入金	18,302
コマーシャル・ペーパー	10,000
未払金	4,022
未払法人税等	800
未払消費税等	109
賞与引当金	955
役員賞与引当金	72
その他	1,112
固定負債	13,714
長期借入金	11,450
退職給付引当金	1,256
役員退職慰労引当金	677
のれん	209
その他	120
負債合計	66,569
純資産の部	
株主資本	50,748
資本金	13,150
資本剰余金	15,487
利益剰余金	25,275
自己株式	△ 3,165
評価・換算差額等	218
その他有価証券評価差額金	218
少数株主持分	56
純資産合計	51,023
負債純資産合計	117,592

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結損益計算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
売 上 高		125,513
売 上 原 価		93,953
売 上 総 利 益		31,560
販売費及び一般管理費		25,573
営 業 利 益		5,987
営 業 外 収 益		903
営 業 外 費 用		437
経 常 利 益		6,453
特 別 利 益		215
特 別 損 失		86
税金等調整前当期純利益		6,581
法人税、住民税及び事業税	2,434	
法人税等調整額	△ 18	2,416
少数株主利益		8
当 期 純 利 益		4,157

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで) (単位：百万円)

科 目	金 額
営業活動による キャッシュ・フロー	9,105
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 12,007
財務活動による キャッシュ・フロー	2,605
現金及び現金同等物に係る 換算差額	0
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△ 297
現金及び現金同等物の期首残高	8,522
現金及び現金同等物の期末残高	8,225

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結株主資本等変動計算書 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等		少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日 残高	13,150	15,487	22,359	△ 1,003	49,993	822	822	49	50,866
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△ 1,241		△ 1,241				△ 1,241
当期純利益			4,157		4,157				4,157
自己株式の取得				△ 2,162	△ 2,162				△ 2,162
自己株式の処分			△ 0	0	0				0
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						△ 604	△ 604	7	△ 597
連結会計年度中の変動額合計	—	—	2,915	△ 2,161	754	△ 604	△ 604	7	157
平成20年3月31日 残高	13,150	15,487	25,275	△ 3,165	50,748	218	218	56	51,023

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

単体財務諸表

貸借対照表(個別) (平成20年3月31日現在)

(単位：百万円)

資産の部		金額
科 目		金額
流動資産		46,286
現金及び預金		7,427
受取手形		7,657
売掛金		14,471
販売用不動産		51
商製品		411
製品・仕掛品		9,195
半製品		422
原材料		1,527
貯蔵品		378
未収入金		1,740
繰延税金資産		452
その他の資産		2,605
貸倒引当金		△ 55
固定資産		59,467
有形固定資産		51,358
建築物		24,323
構築物		838
機械及び装置		4,000
車両運搬具		65
工具器具備品		2,198
土地		19,799
建設仮勘定		132
無形固定資産		884
ソフトウェア		694
その他の資産		189
投資その他の資産		7,224
投資有価証券		2,711
関係会社株式		2,114
長期貸付金		215
敷金・保証金		1,236
繰延税金資産		660
その他の資産		324
貸倒引当金		△ 38
資産合計		105,753

負債の部		金額
科 目		金額
流動負債		45,643
買掛金		15,887
短期借入金		6,213
コマーシャル・ペーパー		10,000
一年内返済予定の長期借入金		7,552
未払金		4,145
未払法人税等		658
未払費用		579
賞与引当金		449
役員賞与引当金		66
その他の負債		91
固定負債		12,715
長期借入金		10,933
負債のれん		57
退職給付引当金		973
役員退職慰労引当金		646
その他の負債		105
負債合計		58,359
純資産の部		
株主資本		47,170
資本金		13,150
資本剰余金		15,487
資本準備金		15,487
その他資本剰余金		0
利益剰余金		21,697
利益準備金		667
その他利益剰余金		21,029
別途積立金		15,200
繰越利益剰余金		5,829
自己株式		△ 3,165
評価・換算差額等		224
その他有価証券評価差額金		224
純資産合計		47,394
負債純資産合計		105,753

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 損益計算書（個別）

（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

（単位：百万円）

科 目	金 額
売上高	119,297
売上原価	90,907
売上総利益	28,390
販売費及び一般管理費	23,187
営業利益	5,203
営業外収益	690
営業外費用	380
経常利益	5,512
特別利益	47
特別損失	79
税引前当期純利益	5,480
法人税、住民税及び事業税	2,193
法人税等調整額	34
当期純利益	3,252

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

ホームページのご紹介

当社はホームページにおいても最新のトピックスをはじめ、業務報告や会社情報などさまざまな情報をご案内しております。

ホームページURL

<http://www.fpco.co.jp/>



トップページ



IR情報

■ 株主資本等変動計算書（個別）（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本									評価・換算差額等			純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		固定積立金	別途積立金	繰越利益剰余金						利益剰余金合計
平成19年3月31日 残高	13,150	15,487	0	15,487	667	2	15,200	3,815	19,685	△1,003	47,320	813	813	48,133
事業年度中の変動額														
自己株式処分差益			△0	△0							△0			△0
固定資産圧縮積立金の取崩						△2		2	—		—			—
剰余金の配当								△1,241	△1,241		△1,241			△1,241
当期純利益								3,252	3,252		3,252			3,252
自己株式の取得										△2,162	△2,162			△2,162
自己株式の処分										0	0			0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）												△589	△589	△589
事業年度中の変動額合計	—	—	△0	△0	—	△2	—	2,013	2,011	△2,161	△149	△589	△589	△738
平成20年3月31日 残高	13,150	15,487	0	15,487	667	—	15,200	5,829	21,697	△3,165	47,170	224	224	47,394

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況

(平成20年3月31日現在)

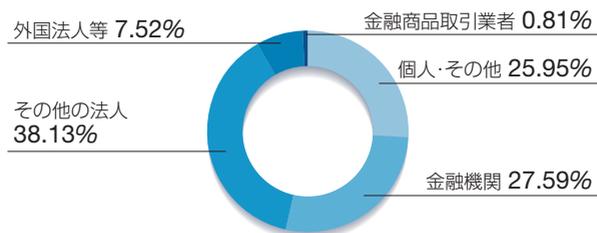
発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	22,142,106株
株主数	4,608名

■ 大株主の状況（上位10名）

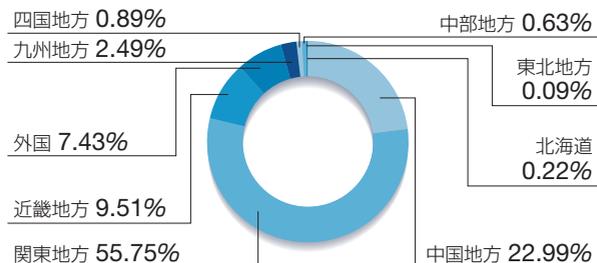
株主名	当社への出資状況	
	持株数（千株）	出資比率（%）
株式会社小松安弘興産	5,650	26.73
積水化成工業株式会社	1,016	4.81
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)	849	4.02
全国共済農業協同組合連合会	622	2.95
小松安弘	613	2.90
エフピコ共栄会	542	2.57
株式会社西日本シティ銀行	440	2.08
日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	409	1.94
日本トラスティ・サービス信託銀行(りそな信託銀行(株)再信託分・(株)もみじ銀行退職給付信託口)	381	1.80
住金物産株式会社	379	1.80

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 出資比率は、自己株式数（1,006,055株）を控除して計算しております。

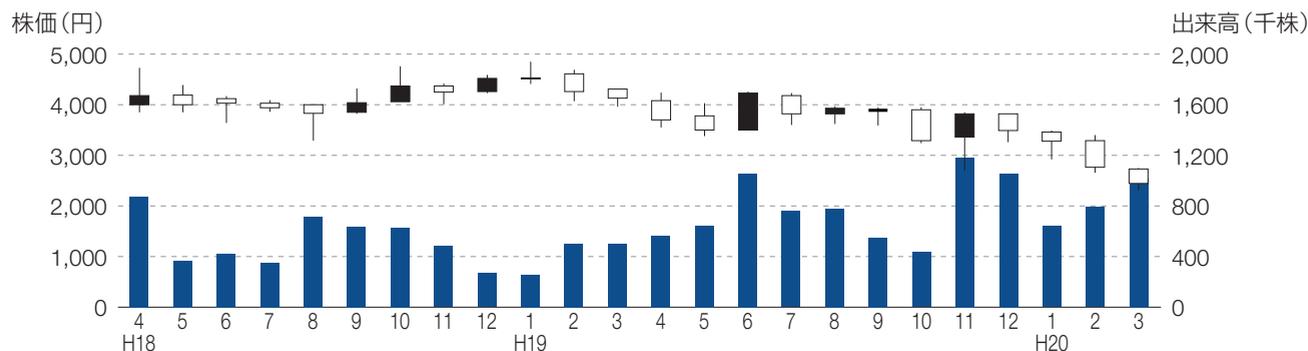
■ 所有者別株式構成



■ 地域別株式構成



■ 株価の推移



社名	株式会社エフピコ FP CORPORATION	資本金	13,150,625,630円
設立年月日	昭和37年7月24日	企業集団の 主要な事業内容	当社は、簡易食品容器関連事業及び商事関連事業を営んで おります。

■ 企業集団の営業所及び工場

本社	広島県福山市曙町一丁目12番15号
東京本社	東京都新宿区西新宿六丁目8番1号
大阪支店	大阪府豊中市新千里西町一丁目1番8号
営業所	札幌(札幌市中央区) 仙台(仙台市若林区) 新潟(新潟市中央区) 静岡(静岡市駿河区) 名古屋(名古屋市中村区) 北陸(石川県金沢市) 広島(広島市西区) 高松(香川県高松市) 福岡(福岡市博多区)
工場	東北(宮城県黒川郡) 山形(山形県寒河江市) 関東(茨城県結城郡) 関東下館(茨城県筑西市) 中部(岐阜県安八郡) 近畿亀岡(京都府亀岡市) 笠岡(岡山県笠岡市) 福山(広島県福山市) 神辺(広島県福山市) 九州(佐賀県神埼郡)
リサイクル工場	北海道(北海道石狩市) 東北(宮城県黒川郡) 関東(茨城県結城郡) 中部(岐阜県安八郡) 福山(広島県福山市) 九州(佐賀県神埼郡)
配送センター	北海道(北海道石狩市) 東北(山形県寒河江市) 東日本ハブセンター(茨城県結城郡) 東京(千葉県船橋市) 中部(岐阜県安八郡) 関西(兵庫県西宮市) 福山(広島県福山市) 九州(佐賀県神埼郡)
エフピコ商事株式会社(広島県福山市)	株式会社エフピコモダンパック(広島県福山市)
エフピコチューパ株式会社(東京都新宿区)	エフピコ物流株式会社(広島県福山市)
株式会社アイ・ロジック(東京都新宿区)	株式会社ダックス(千葉県習志野市)

■ 取締役及び監査役

代表取締役社長	小松安弘	取締役	上垣内詳治	取締役	永井信幸
代表取締役副社長	佐藤守正	取締役	土利川泰彦	取締役	岡恒治
代表取締役専務	下田正輝	取締役	安田和之	常勤監査役	唐井正純
常務取締役	笹部太一郎	取締役	金子誠	常勤監査役	藤井憲治
常務取締役	池上功	取締役	小林敏朗	常勤監査役	藤井良朗
取締役	貞弘勉	取締役	高西智樹	常勤監査役	坂田幹彦
取締役	瀧崎俊男	取締役	高橋正伸		

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月下旬
基準日	1. 定時株主総会 3月31日 2. 期末配当金 3月31日 3. 中間配当金 9月30日 4. その他必要あるとき あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問い合わせ先)	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店
単元未満株式の買増制度	1単元(100株)に満たない株式を所有されている株主さまで、買増しをご希望される株主さまは、上記の三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部へ、また証券保管振替機構に1単元に満たない株式が登録されている株主さまは、お取引口座のある証券会社へお申出ください。
公 告 方 法	電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。 (http://www.fpco.co.jp/) なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 株式会社大阪証券取引所
お 知 ら せ	株主関係のお手続用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。 電話(通話料無料) 0120-244-479(東京) 0120-684-479(大阪) インターネットホームページ http://www.tr.mufig.jp/daikou/



株式会社 エフピコ

<http://www.fpco.co.jp/>

〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目12番15号

TEL 084-953-1145 (代表)